

常用漢字表改定に伴う学校教育上の対応について  
の関係団体からの意見について

1. 全国連合小学校長会	.....	1
2. 全日本中学校長会	.....	3
3. 全国高等学校長協会	.....	5
4. 社団法人 教科書協会	.....	7

平成22年9月22日

常用漢字表改定に伴う学校教育上の  
対応に関する専門家会議 御中

全国連合小学校長会長 向山行雄

### 常用漢字表改定に伴う学校教育上の対応についての意見

貴専門家会議におきましては、常用漢字表改定に伴う学校教育上の対応に関して、現在、精力的に検討を進められていることに対し、深く敬意を表します。

全国連合小学校長会としても、今回の常用漢字表改定に伴う対応において、小学校教育における漢字表記やその指導等に混乱などを生じることなく円滑に実施されるよう、下記のように意見を表明いたします。

#### 記

- 1 小学校における改定常用漢字表における追加漢字等の取扱いについては、平成24年度以降としていただきたい。

小学校においては、来春の平成23年度から新学習指導要領の完全実施が行われるところである。また、平成23年度から使用される教科書についてはすでに検定も終了し、この夏には全国各地において教科書採択作業も完了したところである。このような状況からすれば、小学校においては、改定常用漢字表における追加漢字等の取扱いについては、平成23年度からの実施は極めて困難であることから、ぜひ平成24年度以降としていただきたい。

- 2 小学校における改定常用漢字表における追加漢字等の取扱いについては、計画的な対応をお願いしたい。

小学校における学年別漢字配当表への新たな漢字の位置づけなど、改定常用漢字表における追加漢字等の取扱いを平成24年度以降に実施した場合においても、その後の実施時期について慎重に検討していただくとともに、その実施時期や見通しなどについて早期に公表していただきたい。また、小学校における漢字表記やその指導等に混乱などが生じることのないよう、計画的な見通しと準備、早期の情報提供等の適切な対応をしていただきたい。

- 3 小学校における改定常用漢字表における追加漢字等の取扱いに当たっては、学校や児童の実態を十分に把握した上で、適切な対応をお願いしたい。

小学校における改定常用漢字表における追加漢字等の取扱いに当たっては、学校や児童における漢字に関する指導や学習の状況、児童の発達段階や学習負担等を十分に踏まえ、慎重かつ適切な対応や配慮をお願いしたい。なお、その実態把握等を行う場合には、学校において事務負担増とならないよう、効率的かつ適切な対応を図られるようお願いしたい。

## 2. 全日本中学校長会

平成22年9月17日

常用漢字表改定に伴う学校教育上の対応に関する専門家会議

主 査 吉 田 裕 久 様

全日本中学校長会

会長 新藤 久典

### 常用漢字表改定に伴う学校教育上の対応に関する全日中の意見

標記のことに關して、精力的に検討いただいておりますことに、感謝申し上げますとともに、敬意を表します。検討に際しまして、全日本中学校長会は、以下の点をご配慮いただきますようお願い申し上げます。

#### 記

#### 1 増えた常用漢字191字の学年配当の在り方について

【意見】何らかの目安を示すとしても、国語科教科書会社の判断に委ねること

ただし、新たに加わった漢字を含めて第1学年の教科書から常用漢字の全体を示す一覧表等を掲載し、いつでも全体像を把握できるように配慮すること

【理由】

- ①現行の常用漢字表における1945字のうち小学校学年配当漢字を除く939字の扱いについても、教科書会社によって学年配当が異なっていること（全社とも概ね均等に各学年に配当はしている）
- ②教科書を見ると、約三分の一に当たる300字以上は、漢字だけを取り立てて学習するページに示されており、しかも例文すら伴わない熟語としてのみ示されている漢字もあるという実態から、学年配当を示しても、現状のような新出漢字の扱いでは、かえって生徒の学習負担を増やし、漢字学習への意欲を削ぐことが危惧されること
- ③「だだし書き」については、改定常用漢字が告示されれば、直ちに新聞や書籍等の中学生も目に触れるメディアに改定常用漢字が使用されるようになることから配慮が必要であること

#### 2 増えた常用漢字191字の実際の指導への反映の時期について

【意見】改定常用漢字の告示に呼応して速やかに指導を開始することが望ましいことから、新学習指導要領が全面実施となる平成24年度からとすること

ただし、学習の基本となる教科書については、平成24年度使用教科書の編集がほぼ完了していると思われるが、各学校における指導が円滑に実施できるよう教科書に適切な教材・資料等が含まれるよう要望するとともに、国としても指導内容・指導方法等に関する指導資料の提供に努めるなどのきめ細かな対応が求められること

【理由】

- ①改定常用漢字告示と同時に、中学生が、日頃、目にする新聞や書籍等に改定常用漢字が使用されるようになることから、その時期と指導開始時期が一致することが望ましいこと

- ②「ただし書き」については、実際に指導に当たる教員にとって適切な教材が不可欠であり、指導内容・指導方法等に関する研究も必要であることから、主たる教材となる教科書に適切な教材・資料等が掲載されている必要がある。
- ③新学習指導要領への移行に際し、教科書には含まれない新たな指導内容を含む教科について、国が教材の提供と指導方法に関する資料を全学校に提供したが、改定常用漢字の指導に当たっても、国のこうしたきめ細かな対応により、指導者だけでなく、生徒・保護者の不安を払拭し、導入が円滑に行われることが期待できること

### 3 常用漢字表改定に伴う学校教育での筆写（手書き字形）の取扱い

【意見】教科書の本文に使用する漢字は印刷標準字形とし、筆写（手書き字形）も同じ字形を教えること

ただし、点画を省略した字形も正しい字形であることも教えること

【理由】

- ①指導に当たる教員及びその指導を受ける生徒の混乱を回避するためにも、国としての明確な基準を示し、教科書もそれに準拠して編集される必要があること。その際、できる限り漢字の成り立ち等を踏まえた正しい字形を基本とすること
- ②字形の指導は主に書写の指導において行うこととなるが、教科書に示された字形（印刷標準字形）と手書き字形が異なることは、生徒の混乱を招くだけで、教育的効果を減退させることが危惧されること。また、字形はその漢字の成り立ちと深く関わっており、表意文字である漢字の特質を考えれば、新しい学習指導要領において、漢字の指導を含めた「言語事項」が新しく「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に改められたことから、漢字の特質に即して指導することが望ましいこと
- ③「ただし書き」については、現行の漢字の指導においても、指導は正しい字形で行っているが、高等学校の入学者選抜試験や普段の漢字書き取りテスト等では、点画のハネやハライ等で許容範囲を認めているという実態があることから、点画を省略した字形も正しい字形であることを指導する必要があること

### 4 常用漢字表改定に伴う高等学校の入学者選抜の対応の在り方について

【意見】上記2の考えを踏まえて、平成 27 年度入試から出題範囲に含めることが妥当であること

【理由】

- ①改定常用漢字が指導開始される平成 24 年度に入学した第 1 学年の生徒が第 3 学年に進級した後の入学者選抜から実施することが、生徒に過重な学習負担を強いることなく、公平な実施となること
- ※その際、中学生が日常生活においてほとんど触れることのない漢字については、中学校における漢字指導の意義を尊重する上からも、避けることが望ましいと考える。したがって、国として、入学者選抜を実施する都道府県教育委員会、国立私立高等学校等に対して何らかの指導・助言を行う必要があると考える。

以上

常用漢字表改定に伴う学校教育上の対応に関する専門家会議

主 査 様

全 国 高 等 学 校 長 協 会

会 長 青 山 彰

(公 印 省 略)

「常用漢字表改定に伴う学校教育上の対応」に関して全国高等学校校長協会として下記のとおり意見を申し述べます。

## 記

「検討事項 整理メモ」(第5回専門家会議)の論点1～3について

### 論点1

#### 1 常用漢字表改定に伴う「読みの指導」の見直しについて

##### (2) 高等学校における常用漢字の「読みの指導」について

現行どおり「常用漢字の読みに慣れるようになること」でよい。

ただし、この文言では余りにも投げやりな感じを受ける。安易に読み飛ばすことを示唆しているようにも受け取れる。声に出して読めればよいというものではないはずである。

漢字は表意文字であり、我が国の伝統文化の形成に大きく寄与してきた意義を踏まえることと、漢字及び漢語が抽象概念を表す有効なツールであり、国民が論理的な思考を高めるために大きな役割を果たしていること、以上の2点を踏まえる必要がある。意味を理解し、深く読み取る力を養うことの含意を示す表現の工夫を望む。平成18年に制定された新しい教育基本法や今次の学習指導要領の精神にふさわしい表現をお願いしたい。

学校の実情もあるので、すべての常用漢字に及ばなくてもよいが、実情に即しつつも必要なものをしっかりと身につけさせる指導ができる指針にして欲しい。

次に、改訂常用漢字表による漢字指導の実施時期についてであるが、正規に指導を開始するのは「新学習指導要領の実施時期」が順当であろう。

しかし、現行の常用漢字表でもそうであるが、教員は教科書に準拠して指導を行っているものの、日頃から常用漢字に対してはあまり意識が無いのが一般である。そういう教員の意識改革には、常用漢字表が改定されて間がない「中学校の実施時期から実施する」ことが、中学生を受け入れる準備も兼ねて、よい効果があると思われる。ただし、教科書がどうなるのかが課題となろう。

## 論点 2

### 2 常用漢字表改定に伴う「書きの指導」の見直しについて

#### (1) 高等学校における「書きの指導」について

現行どおり「主な常用漢字が書けるようになること」でよい。

ただし、「読み」の所で触れたように、漢字は「読み」「書き」だけではない。表意文字である以上は「分かる」「理解する」が含まれる。「ワープロ時代だからすべて書ける必要はない」という短絡な意見には素直に賛成できない。「読める」「書ける」という知識だけを求めた結果が、規範意識や道徳心の希薄な国民を生み出したという社会の失策に目を向けるべきである。意味を込めて手書きする作業が生徒の時期に必要なのではないだろうか。「主な」常用漢字でよいが、意味を理解して適切に書ける指導をするという含意の表現を工夫して頂きたい。

その対応として、

(ア)「主な常用漢字」の範囲や字種を具体的に示す」は望ましいが、全国のすべての高等学校に当てはまる範囲や字種など誰にも示すことは出来ない。高校生の約半数にとって大きな負担となるだけで、現実的には無意味な試みになる恐れがある。

(イ)「主な常用漢字」の範囲や字種を一律に示すことは難しいので、「改定常用漢字表の性格をしっかりと周知することにより、各学校の生徒の実態等に応じて指導する」の方が現実的な対処法であると思われる。ただし、現場に任せる以上は常用漢字表の性格を周知するだけでなく、各学校で指導計画を立て、効果測定などを行うことは当然である。

## 論点 3

### 3 常用漢字表改定に伴う学校教育での筆写（手書き字形）の取扱いについて

(イ) 筆写の指導における字形の基準のようなものを具体的に示すことは難しいので、各学校（高等学校）が生徒の実態に応じて指導する」ことが現実的だと考える。

印刷文字はデザインの問題で、必ずしも常用漢字表と同じではない。生徒のみならず社会人でも各自の好みでいろいろなバリエーションがある。印刷活字でも「寺」は上の土の下の横棒よりも「寸」の横棒の方が長いものが多いが、「等」では「土」より「寸」が短いものが多い。この程度の違いは許容範囲とすることが出来る。各教科の授業での板書でも教員の癖が出る。余りこだわらない方がよいのではないか。生徒から疑問が出されたら正しい基準を説明できることが必要であろう。その意味では、参考としての字形の基準を示すことも必要かも知れないが、細かく指摘しすぎて、漢字嫌いを生み出すような指導は避けるべきである。

高校生ともなれば、「現代文」では常用漢字に気を配れても、「古文」「漢文」では常用漢字などはほとんど意味をなさない。振り仮名などを振ってもほとんど意識しない。ましてや、「日本史」や「世界史」の中国史などでは、常用漢字を大きく逸脱した漢字が数多く出てくる。むしろ、そんな学習環境の中で、生徒が漢字に興味を持つこともある。学校によっては、生徒の手書きの作文などでも、常用漢字をはみ出した難しい漢字が多く使われている。

平成22年9月27日

「常用漢字改定に伴う学校教育上の対応に関する専門家会議」

主 査 殿

社団法人 教科書協会

## 「常用漢字表改定に伴う教科書上の記載の在り方について」要望書

標題の件につきまして、下記①～③の検討事項(案)をもとに検討いたしました。改定常用漢字表に基づく漢字指導への移行が円滑に行われるよう、実施可能と考える時期および理由を教科書協会としてとりまとめましたので、以下に記します。

### 「検討事項 整理メモ(案)」中の「6」の項目

- ① 改定常用漢字表を中学校及び高等学校の国語教科書の巻末に掲載すること。
- ② 本文中の表記を改定常用漢字表に基づく新しい表記に直すこと。
- ③ 改定された常用漢字の指導を適切に行うための教材に差し替えること。

### 【新課程用 中学校教科書】

- ・ 今回の改定で大幅に追加された字種を、すでに編集作業を終えた教科書に反映させるのは大変な労力と時間を要します。また、改定常用漢字表を見越した教材作成をしていないため、追加漢字を教材中に反映させるのはどうしても無理が生じます。
- ・ ただ、改定常用漢字表に基づく漢字指導への移行が円滑に行われるよう、以下の対応をさせていただきます。
- ・ 平成24年度以降に使用される国語教科書につきましては、①の改定常用漢字表を教科書中に掲載する処置を取らせていただきたいと思います。
- ②につきましては、24年度版教科書から、各社において適宜対応という措置を取らせていただきたいと思います。
- ③につきましては、編集作業に一定の期間を要するため、平成28年度以降に使用される改訂版の教科書から対応させていただきたいと思います。

### 【新課程用 高等学校教科書】

- ・ 改定常用漢字表が予定どおり、年内の11月（～12月）に告示されるならば、現在編集集中の新課程用高等学校教科書には、完全対応させることが可能です。
- ・ 現行課程用高等学校教科書での対応につきましては、上記「新課程用 中学校教科書」と同様、
  - ①につきましては、改定常用漢字表を教科書中に掲載する。
  - ②につきましては、各社において適宜対応する。という対応を取らせていただきたいと思います。

### 【新課程用 小学校教科書】

- ・学年別漢字配当表の見直しは長期的課題とされておりますので、当面の対応は不要と考えます。しかしながら、専門家会議においてこれまで、追加字種についてのみ言及され、追加音訓については言及されておられません。新たに追加された読みの指導がすべて中学校段階に回るなら問題ありませんが、新たな音訓が小学校段階で追加された場合、巻末の学習漢字表を修正するだけでは指導に混乱をきたしますので、小学校の場合は、あわせて本文表記も修正する必要が生じます。その場合は、上記「新課程用中学校教科書」と同様の対応を取らせていただきたいと思います。

### 【要望事項】

以上の回答と併せまして、教科書での対応を行うにあたってご検討をお願いしたい要望事項を以下に記します。

- ・教科書への記載に関してどのような結論になった場合も、実施時期と方法について、各教育委員会への周知徹底をお願いいたします。また、文部科学省ホームページ等を使っての、国民への周知徹底も併せてお願いいたします。
- ・いずれの対応を取る場合も、字体がきちんと定まっていることが前提となります。字体の選択が各社判断に任されることのないよう、国としての明確な基準を示してくださることを強く要望いたします。